

趣旨	DIYを通して家族や地域の人とのコミュニケーションを図る
目的	DIYで物を完成させたり、技術を取得する DIYを通して家族間や地域の人が出会い、つながりを深める
目標	①メンバーが技術を習得する・物を作る ②メンバーや参加者がここにきて楽しむ ③DIYを通じての仲間づくり

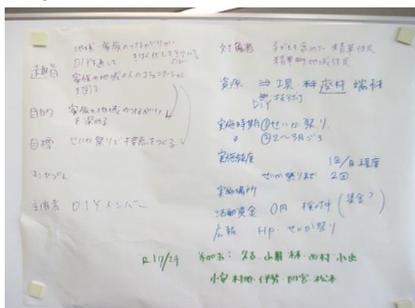
プロジェクトのセールスポイント

ハードルが高そうなDIYを身近に楽しみ、笑顔に、健康に！

活動の報告 こんな活動をして、こんな反応がありました

●実施の概要●

- ものづくりを通してメンバー一人一人がDIYの技術向上を目指した。
- 作成した物をおすそ分けとして、精華町健康づくり・介護予防サポーターすてき65メイト「桜が丘2丁目体操クラブ」へ寄贈した。
- 活動の様子を伝える映像を作成し、せいか祭り会場と近鉄新祝園駅改札前にて放映することでメンバー拡充を図った。



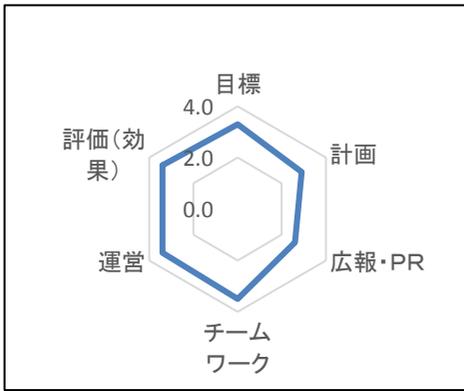
イベント名	回数	実施日	参加者数
技術向上		7月19日	3
組立式作業テーブル		9月25日	5
鍋敷き		10月23日	8
親子椅子		12月4日	7
看板		12月18日	5
蝶番等取付-小型椅子、看板		1月22日	4
贈呈式		2月10日	4
	計7回	延人数合計	36人
メンバー会議	回数		参加者数
		5月13日	9
		6月26日	9
		7月24日	10
		8月13日	8
	計4回	延人数合計	36人

●参加者の声や様子●

- 電動工具の使用に慣れていないメンバーも多くいたが、知識や技術のあるメンバーの丁寧な指導のもと作業ができ、作品を仕上げることができた。
- 小学生の参加もあり、世代を超えた交流があった。また、参加者からは、「お兄ちゃんたちと話せてよかった」「またやってみたい」との声があった。
- 看板を寄贈した団体からは、「立派な看板」と喜んでもらえた。



活動の評価 やってみてこんなことを思いました



目標：3.3
 計画：2.9
 広報・PR：2.6
 チーム：3.5
 運営：3.4
 評価(効果)：3.4



4：期待を上回った
 3：期待通りであった
 2：期待を少し下回った
 1：期待をかなり下回った
 0：不明

- ・技術力の向上をすることができた。
- ・活動のPRがうまくできておらず、メンバー獲得が難しかった。
- ・1回に約2時間の活動時間で何らかの作品を作る事が出来良かった。これは、事前に設計や寸法を出しておくなど、準備を行ってこそ成せる技である。

手ごたえを感じたこと
 ・良かったこと

- ・メンバー間で交流し、持っている技術や知恵を出しながら、活動に取り組めた。
- ・実際に手を動かし物が出来上がることで感じる達成感、喜びは大きい。
- ・小学生の参加もあり、世代を超えた交流の場になった。
- ・おすそ分けとして作成した看板を、精華町健康づくり・介護予防サポーターすてき65メイト「桜が丘2丁目体操クラブ」へ寄贈をし、喜んでもらえた。

大変だったこと・反省するべきこと

- ・メンバー間で何かしらの負担があった。(金銭面・場所・材料)
- ・現メンバー体制のため、材料や工具の費用はかからなかったもので、費用調達など運営面で課題が残った。
- ・場所、電動工具、材料をメンバーの一人に頼るかたちになり、負担が大きかった。
- ・予算0と言いながらも細かな部品や材料を購入して持ってきたメンバーもいたので、資金を確保する方法について考えるべきである。

気づいたこと・学んだこと

- ・一般的な木工道具だけではなく、電動工具や定規の使い方、安全の確保の仕方が分かった。
- ・同じ目的をもった人たちが集まって、活動に取り組むことでメンバーに一体感が生まれるとともに、参加者もその様子を見て、一緒にやりたいと感じてもらえることができるということ。

これからに向けての課題

- ・費用が0のため、必要な資材を持ち出ししていたので、資金源になる活動が必要である。
- ・PRがうまくできておらず、周知が必要である。
- ・メンバーが負担にならないよう、無理せず活動を続ける方法を見つけることが必要である。



メンバー

小出一夫・久古朋子・西村武・林茂信・山出治樹・船本陽子・藤田怜美
 四宮千里・伊勢大地・松本亜蘭・村地実・子安万結美

メンバーの感想

・世代の違う方々とお知り合いになれ、みんなでひとつのものを作ることで、一体感が生まれた。

・今回作ったものは、すべて家で使われていてテーブルコースターは冬の鍋物用に、作業用テーブルは外に出せない植木鉢用台になり、丁度花が咲き始めている。

・出産や育児で活動に参加できませんでしたが、参加できないながら活動の報告をメールや書面で確認するのが、日々楽しみでした。

・けがをしないよう安全面からみた電動のこぎりなどの道具の使い方を学びました。また、図面から推測できることに気づき、この活動を活かして家のトイレの水漏れ修理に挑戦しています。

・まったくやったことのないDIYをやってみて、みんなで力をあわせれば色々作れる楽しさを知った。

・みんなでわいわいできるのがよかった。

・いろいろな世代の居場所となった。

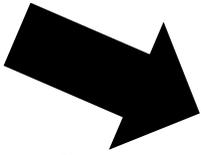
・同じ目的をもった人たちが集まって、活動に取り組むことでメンバーに一体感が生まれるとともに、そのことが参加者もその様子を見て、一緒にやりたいと感じてもらえることができるということに気づきました。

・みんなで一つのものを作り上げることに喜びを感じた。

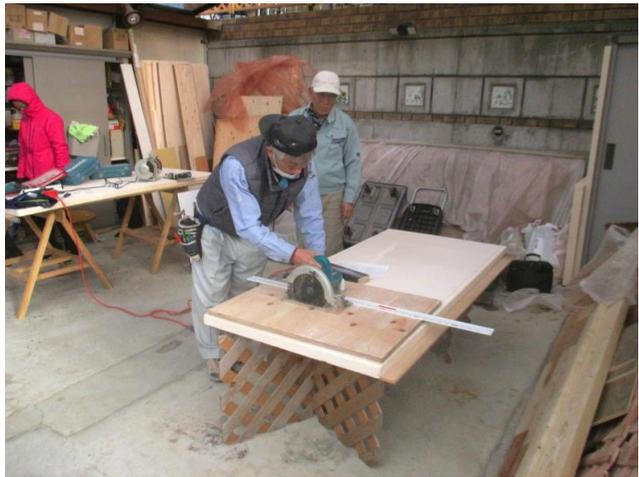
・どんなものでもアイデアは多いほうがよいと感じた。

DIYの流れ

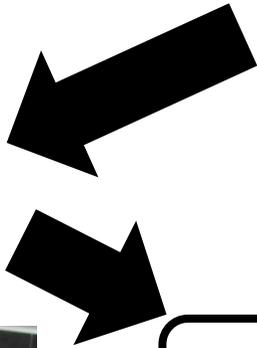
アイデア、設計図



材料用意



組み立て



完成!!

